
バトルスピリッツ 光と闇のヴルムノヴァ

龍神グラフィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バトルスピリッツ

光と闇のウルムノヴァ

【Nコード】

N3489Y

【作者名】

龍神グラフィア

【あらすじ】

未来で引き金となつてきえてしまった馬神弾

彼が今、この世界に帰ってくる！

どーもグラフィアです！

この小説は、

バトルスピリッツブレイヴを知っている人向けに描いています。

苦手な人はバックを勧めます

では読んでみてください。ちなみにこのタイトルは意味ありません。

ブローグ

まい side

弾、あなたはいつこのせかいに帰ってくるの？

早く帰ってきて、カレーを作ってあげるから　ね？

いつまでも待っているからね、弾！！！！

馬神弾 side

此処は………そうか、俺はあのバトルでバローネに勝って、引き金になったんだっけ？

まい、ごめんな、約束守れなかった。本当にごめん。

俺はそんな事を思っていると、辺りが急に明るくなった。　　う
わ、眩しい！！

おそろおそろ目を開けるとそこは海で深さは膝ぐらいだった。砂浜へ上が ろうと歩き出すと見慣れた後ろ姿を見つけた。 髪を切ったのか長さは違っけど間違いない。

『帰ってきたのか』

俺は空を見上げて小さくお礼を言った。 そしてずっと会いたいと思ってた人の元へと向かう。

s i d e o u t

「見ててね、ダン」

そう呟いて海を背にする。 すると後の方で水がバシャバシャと音をたてる

「帰る…」

音を気にしないで歩き出すと今度聞こえてきたのはサッサツと砂浜を蹴って走るような音。音の持ち主は私の近くで止まった。

なんか怖いな…。

暗いというだけで恐怖感がどんどん高まりなかなか振り向けなかった。音の持ち主は一步ずつゆっくり私に近づいてくる。

「バトスピやろうぜ」

思わず肩がビクツとなる。なぜならこのセリフに聞き覚えがあるから。

あれは私がダンを呼びに行った時に言ったもので、誰も知るはずがない。

ゆっくり振り返るとそこには優しい笑みを浮かべたダンがいた。

「ダン…?」

「バトスピやろうぜ、まあ」

「う…そ。ダン…なの?」

「ああ」

私の目の前にダンがいる…　ずっと会いたいと願っていたダンがいる。

まゐはダンの胸に走った。

「本当に？本当にダンなの？」

「そうだよ」

「夢じゃない？」

まゐは信じられないといった顔で俺をまじまじと見た。

「こうやって俺に触れてるだろ？」

「…っ会いたかった！」

涙を流し再び抱きついてきたまゐを俺はそっと抱きしめ気になっていたことを聞いた。

「髪…切ったのか？」

ダンは以前より短くなった髪を触りながら聞いてきた。

「もう満足したから、いろいろと。でも一番の理由は、光主として旅して た頃からソフィア号にいた時までの思い出が…あなたでいっぱいだったから…」

「…そうか。ごめんな」

「謝らないで？髪なんてまた伸ばせばいいのよ」

「でも…」

「ダン^ダは髪、長い方が好きなの？」

「長くても短くても、俺が好きなのはお前だけだよ」

「ダン…」

ダンはまゐの肩に手を置くと真剣な表情になった。

「まゐ、待たせてごめんな」

「ううん」

「…ただいま」

「おかえり、ダン」

見つめ合った二人はお互い微笑み合い優しいキスを交わした

設定（前書き）

まいのいが変換できない

o r z

設定

馬神弾

バトルスピリッツブレイヴの主人公 別名激突王

未来の戦いで引き金となつてきてしまった。 でもマザーコ

アのおかげで帰ってこれた。 元の世界に帰ってくる時に誰

だかわからないが十二宮のxレアを渡された。

まいとは付き合っている

性格はブレイヴの時より冷めた性格になっている

ちなみに両親とは和解している。 [wiki](#)参照

使用デッキ

ノヴァデッキ

紫乃宮まい

バトルスピリッツブレイヴのヒロイン

未来で弾を失つて以来、バトルスピリッツを見るだけであのときの事を思い出してしまふ。しかし弾が帰ってきてからはそれは無くなっている。

弾のためならなんでもする。

学校ではとても人気がある

性格はブレイヴの時と同じだが、昔のヴィオレの性格が少し混ざっている

髪型はブレイヴのときより若干短い程度

使用デッキ

なし

世界設定

ブレイヴが弾たちの世界にも新しく出来ている
バーストはまだ先 今後出す予定。

ハジメ達を出す予定ではいます

設定（後書き）

次からストーリーです

新キャラ募集します！

第一話（前書き）

駄作ですが、見てください

第一話

弾side

あれから一年の時間が流れた。

まさかまたブレイヴが使えるなんてな

で今小学生とバトルをしている。

『ジークヴルムノヴァでとどめ!』

『ライフで……………』

『君のデッキの構築すごいいいよ。頑ん!ありがとうございます!』
!..!』

『弾君、もう、かえっていいわよ』

『わかりました』

『さてと帰るか』

・・前

にもこんなことがあったような・・・

ま、いいか。

『弾、お疲れ様！』

『あ、まい、待っててくれたのか？』

『うん、弾と少しでも長くいたいし』

今話しているのは紫之宮 まい

俺の彼女、いや、恋人だ。

帰り道

『弾、』

『なんだ、まい』

『もう、いなくなったりしないよね？………』

『またそれか、もう、お前をおいてはいかない。絶対に………』

『そう…約束よ？』

『ああ………』

まいの家の前

『んじゃ、また』

『じゃあね弾。』

さてと俺も帰るか

『光龍騎神サジツ・アポロドラゴン・・・』

こいつには、世話になった

『サジット、これからも宜しくな。
……俺は、もう、まいを悲しませる訳にはいかない』

その時、光龍騎神サジット・アポロドラゴンが光ったような気がした。

次の日 学校

『ここはテストで出るから覚えておくように。』

キンコンカンコン

『では今日はここまで！』

『起立。礼、着席』

ガヤガヤ、

『ふう、やっと終わった。』

『なあ、弾』

『なんだ、恭介か。』

こいつは河野恭介、俺のライバルかな？

『いいかげんまいさんに俺の事紹介しろよ！』

まだ まいの事諦めていなかったのか……

『無理、まいはもう、俺の者だし』

『何だと貴様！こうなったら、バトルで決着だ！！』

『…………お前、そのセリフ何回め？まあいいや、暇だからバトルし

てやるよ』

『カードショップでバトル!』

そして

『光龍騎神サジット・アポロドラゴンの合体時効果、ブレイヴの数だけ、b p 1 0 0 0 0 以下のスピリットをはかいする。俺はお前の場の麒麟星獣リーンを破壊する』

『ブロッカーいない!!--』

『とどめだ。サジット・アポロドラゴン

』くそーーー』

いいかげん諦めろ。

おや？

いつの間にかギャラリーが増えている

『流石激突王！！』

『もう。付き合っている人が、……私の弾様が！！』

『もういいかげん、諦めろ。まいは俺のだ』

『畜生、』

恭介はそういつて去っていく

さてと帰るか

『弾！』

『まい！見ていたのか』

『たまたま、ここにきたから、そしたらあなたがバトルしていて。さっきのバトル圧勝だったね。』

『……でもまだ足りない。あのバトルフィールドでの戦い。またやりたい』

『……弾、そんな事言わないで。またあなたがなくなったら私もう……』

『まい……』

『私ははつきり言うと、バトルスピリッツ大嫌い。だって弾を一度死なせのようなものだし』

『まい、でも俺はここにいる』

『弾……』

『まい、……そうだ、まい、今日暇か？』

『え？暇だけど……』

『そうか、俺の家に来ないか？』

『あなた私に変な事するつもりじゃあないでしょうね／＼』

まいは顔を赤くして言う、く、可愛い。

『べ、別にそんな事じゃ／＼』

『そう？ボソツ　ま、弾にならなにされても、』

『？　何か言っただ？』

『なんでもないわ。じゃあ行こう弾！』

『ああ』

弾の家

『相変わらず、バトスピばかりね。クスクス』

『悪かったな。俺にとっては三番目に大事な物なんだから』

『一番目は？』

『まい、お前だよ』

『弾、ありがとう』

俺はまいを優しく抱きしめる

『お前は誰にも渡さない。絶対！』

『弾／＼／』

この時間だけ長く感じた

第一話（後書き）

次回は、まいにストーリーカー？

弾、怒りのダークヴルムノヴァー！！

お楽しみに

まいにストーカー

前編（前書き）

きゃあ、やっちゃまった。

後半、弾が狼になります。お気をつけて

まいにストーカー

前編

まい side

今学校帰り

『じゃあね、まい』

『じゃあね、』

私は友達と別れた。

さてと帰りに弾の家に寄っていろいろ

??? 『ストーカー』 side

あれがネットアイドル、ヴィオレまいたん はあはは・・・

まいたん何処に住んでいるかな？ Twitterで掴んだ情報によると、この辺らしい。

・・・よし、後をつけるか！

まい side

??、何だろう、変な視線を感じる。速く弾の家に行こう。

私は歩くのを速めた。

やっぱり、つけられている。助けて、弾!!

??? side

まいたんまってよー はあはあ
んにしてあげるからね。ぐひひ

絶対君を、僕のお嫁さ

まい side

あれから結構走った。何とか振りきれたみたい。
の前だ。やっとなつた
。 あ、弾の家

弾なら、何とかしてくれるよね。

私は弾の家のドアを開ける

『弾！助けて！』

弾side

今俺は、ノヴァデッキを改造している

『うーん、やっぱり、安定性を高めるためにサイレントウォールは三枚積みにして、えーとそれから、』

『弾！助けて！』

急にドアが開いて、まいが抱きついてきた

『うわ！・・・まいか どうした急に』

『グス、実は……………』

まいに話を聞く

『成る程、ストーカーか、許せない』

『弾、どうすればいい？』

まいが上目遣いで聞いてくる。く、可愛いじゃないか。キスしたくなる。我慢だ我慢

『とりあえず、今日は俺の家に泊まっていけ。まだストーカーがいるかもしれない！』

『……弾も大胆ね。』

『馬鹿ノノそんなじゃない』

ちなみにいい忘れていたが、俺の両親は海外に出張している。
だからいつも1人

『解ったわ、お母さんにメールをうっておく』

『ああ、明日は休みだ。ゆっくりしていけ。』

『うん・・・ あ、このデッキって、確か弾とバトルしたとき私が使ったダブルノヴァ……懐かしいな』

『ああ、今改造していたんだ。どうしても事故率が高いし。
それにしても、あのときはびっくりしたな。いきなり告白してくるし。』

『馬鹿ノノあのときはつい、あなたが、あの闘いで引き金を引くの止めたくって。え、きゃ!』

気がついたら俺はまいを押し倒していた

『ちょっと弾!どつしたの急に、離して!』

俺はこんなことを言っていた……

『まい、もう、俺はもう限界だ。俺とブレイヴしてくれ。』

『・・・いつかこんなことがあるのを覚悟はしていた、私でよかつたら、そのかわり優しくしてね。／／／』

『まい／／／』

俺とまいは一つになっていた・・・

まいにストーカー

前編（後書き）

次回、ストーカーと決着！

まいにストーリーカー 後編（前書き）

バトルは省略しています。ご了承ください

まいにストーカー 後編

弾side

あれから一日がたった

今、デッキ調整をしている。何のデッキかって？

もちろん、ダブルノヴァだ。ストーカーとバトルになるだろう、本気で殺ってやる。

まいはどうしたかって？

疲れすぎたのか寝ている。

『うーん、やっぱり、デルタバリアは外せないしビックバンエナジ―はこのデッキのキーパーツだし、それかr。』

悩んでいると、突然ドアが開いて・・

『弾！』

『うわ！ど、どうしたまい？』

『どうしたもこうもないわよ／＼／＼／
いるじゃない／＼／』
く、首に後が付いて

まいの首を見ると赤い刻印がはつきりと……

『別にいいじゃないか。これでまいは俺のものだって事を証明できるし。』

その言葉を聞いたまいは顔を真っ赤にして、俺に

『弾の馬鹿——！』

バシン！

とビンタしました

痛い……………

であれから結構時間あった

『弾、今日さ。久しぶりにバトスピショップにってみない？新しいカードが発売されているし。』

『本当か！』

『ええ、確か、マネキキャットという、とてもやばい能力を持っているブレイヴらしいわ』

『本当か！ よし買いに行ってみるか。』

『うん』

で今俺たちはカードショップに向かっている。

・・・さつきから後ろから気配を感じる。あれがまいの言っていた
ストーカーか？

『まい、あのキモい奴がストーカーか？』

『多分……姿は見なかったけど、この気持ち悪い視線は確かに昨日
の……』

『そうか、』

あいつがストーカーねえ、

『おい、いいかげん出てこい、ストーカー』

俺は自分でもびっくりするくらい、無機質な声を出していた……

そして、電柱の影から典型的なオタクっぽい奴が出てきた。……

『おい、お前何なんだ？、僕のまいたんと一緒にいるなんて、けし
からん！-！』

おい、まいが引いているぞ……

『弾……』

まいが俺の手を握る。よっぽど気持ち悪いんだな。

『おまえはストーカー行為をしていたそうだな。』

『何を言っている？。ただ後をつけていただけだ』

『・・・それを世間ではストーカーというんだよ』

『う、うるさい、こうなったらバトルだ。もし僕が勝ったら、まい
たんは僕のものだ！！』

『ちよつと！何よそれ？私の意思を無視して？』

まいもきれているな。こりゃ。

『おい、逆に俺が勝ったらまいには近づくな！！！！』

そして、

『先攻は僕だ！スタートステップ、ドローステップ、メインステップ、ゴラドンをレベル1で召喚、ターンエンド』

『スタートステップ、ドローステップ、メインステップ、ブレイドラをレベル1、サラマントルをレベル2で召喚！』

『アタックステップ！サラマントルでアタック、効果で一枚ドロ』

『ライフでつける。ふん、そんなカスの攻撃なんか全然いたくない』
『w』

『黙れ、バトルの途中だ。』

さて、この屑をどうつぶすか……

15ターン

まいside

弾のライフが1、でも弾なら余裕だよな。

この世界では彼より強いカードバトラーなんていないし……

弾side

さてと最後のターンだ

『マジック、ビックバンエナジーを使用、このターン、系統星龍を持つスピリットのコストを自分のライフと同じにする！！俺のライフは1、よってコストは1となる』

『俺はジークヴルムヴェガを転召、超新星龍ジークヴルムノヴァをレベル3で召喚！　さらに滅神星龍ダークヴルムノヴァをレベル3で召喚！』

『こ、これは、幻の×レア超新星龍ジークヴルムノヴァ！、もしかして、お前は』

『そうさ、俺は馬神弾！激突王さ』

『続けるぞ、ジークヴルムノヴァの効果により、ライフは5になる、しかし今は必要ない』

『さらに、ケルベロードを召喚、そしてジークヴルムノヴァにブレイヴー！！』

『アタックステップ、滅神星龍ダークヴルムノヴァでアタック、効果により合体スピリットに指定アタック、いけ、ダークヴルムノヴァ！、あいつのカタストロフにアタック！』

『馬鹿か、お前は、カタストロフのb pはバルガンナーをブレイヴして、b pは22000!』

『馬鹿はお前だ!ダークヴルムノヴァがブレイヴスピリットにアタックするとき、b pを+10000、よってお前のカタストロフは破壊される。』

『て、手札にマジックない、』

カタストロフは破壊される

『さらにジークヴルムノヴァでアタック、フラッシュタイミング、マジック、インビジブルクロークを使用、このターン、ジークヴルムノヴァはブロックされない』

『く。ライフでうける。』

『そして、ケルベロードの効果、デッキから五枚破棄することで回復、もう一度アタック!!!』

『くそ、この僕が負けるなんて、』

『約束通り、もうまいには近づくな!!』

・・・全然面白くない。バローネ、またお前とバトルしたいよ。

俺はデッキをかたづける。

『さてと、まい、帰るぞ。』

『うん』

……その時

ストーカーが息を荒くして

『僕のまいたんに近づくやつは……こうしてやる!!!!』

ザシュ!

腹に何かが刺さった?

腹を触ってみると、生暖かい、……これは血?

『弾!』

『はは、は、僕のまいたんに近づくからこうなるんだ。』

『く……お前だけ……は許さない……』

そこで俺は意識を失った………

『弾！しっかりして！』

まいにストーリーカー 後編（後書き）

弾は平気です。安心してください

未来では

1（前書き）

遅くなってすみません

ちよつと事故にあつたもんで……

弾『一体何があつたんだ？作者』

『ちよつと車と激突してね。ハイランカーデッキを買ってきた帰りにね。』

『おいおい、……』

『おかげでノヴァデッキは車の下敷きに、俺はピンピンしているのに、はあ。』

『……ドンマイ』

まだ売っているかな？ノヴァデッキ………

まい side

………今、私は病院にいる。弾がストーカーに刺されて、病院で今、手術をしている。

ストーカーはどうしたかって？

私が蹴り飛ばしたわ。

また、バトルスピリッツが弾を死に追いつめている。
弾がまたバトルスピリッツのせいで・・・

『弾、無事でいてね。弾………』

私がそんな事を思っていると、足音が、

『はあはあ、あ、まいちゃん。』

『あ、弾のお母さん………』

そこには弾の母さんがいた。

『ねえ、弾が刺されたって本当？』

『………はい、私にストーカー行為をしていた変態に刺されて今、手

術室に・・・』

『！、そんな、弾！！』

母さんが泣き出してしまった……

無理もない、最愛の息子が刺されてしまったとは…

『お母さん、……ごめんなさい！私のせいで、弾が、弾が、こんな目に』

『グスツ、あなたのせいではないわ、まいちゃん。だから自分を責めないで』

『……………はい、』

弾……………

……あれから五時間経った。 今手術室の明かりが消えた。

扉がひらく。 弾！

『弾！、先生、弾は大丈夫ですか？』

『ええ、腹部に深い傷を負っていましたが、何とか平気でした。後は本人の回復力ですね……。では、』

カラカラ……………

『弾なら平気よね？まいちゃん。』

その言葉に私はこう返す

『はい、もちろん、弾は今まで何度も危機を乗り越えてきたんですから！』

『ええ、そうよね。それじゃ弾の病室に行く？』

『はい、』

病室

『弾、速く目覚めてね。私、待っているから。』

『まいちゃん、私、有給が貯まっているから、全部使って弾の側に
ついているわ』

『はいわかりました。』

『そういえば、まいちゃん、喉が渴いたでしょ？ちよつと買つてくるわね。』

『あ、ありがとうございます。』

お母さんは病室から去っていく

私は弾の側に置かれているデッキをみた。

……このデッキは昨日使ったノヴァデッキ。レシピを見ると、ノヴァを速く召喚するように組まれている。

『弾、相変わらずバトスピが好きみたいね……』

・いつだったかな、弾を異性として認識しはじめたのは？

その頃未来では……

『ソフィア、相変わらず元気のようだね。あゝ僕の麗しのソフィア』

楽しい日々を過ごしていた。……

『艦長も相変わらずですね』

『こんな日々を過ごせるのも弾のおかげさ……
弾、なぜ君が消えなくてはならなかったんだ』

『艦長……、』

『さてと今日も地球のために頑張るとするか!』

『はい!』

そんな事を思っている二人に凄いニュースが、

『あーいたいた。』

『どうしたんだいプリム?』

『ローマから、バローネから通信らしいよ。
指令室に集合だつてさ、ガザン長官から』

『何があつたんだろう、行ってみよう』

そして指令室……

『皆集まったようだな…』

『長官、何かあったんですか？』

『ああ、詳しくはバローネから聞いてくれ』

ガザンは嬉しそうに言う
一体何があったのだろうか？

『バローネどうしたんだい？』

『実は我々でロンドンにある、弾のデッキが展示されている美術館を調べてわかったことなんだが……、実は……弾がもとの時代に帰っていたらしい。』

バローネは笑みを浮かべそうだった。

『『『え？』』』

クラッキー達は固まってしまった……

未来では

1（後書き）

次回はもお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3489y/>

バトルスピリッツ 光と闇のグルムノヴァ

2011年12月3日20時50分発行